

一般社団法人 愛媛県中小企業診断士協会

発行人:会長 山本 久美編 集:広報委員会

〒790-0003 松山市三番町4-8-7 第5越智会計ビル1 F TEL: 089-961-1640 URL: http://shindan-ehime.com

E-mail: shinai@shindan-ehime.com



◆会長挨拶 (山本久美)	1
◆研修委員会の活動について (1) (一ノ宮康嗣)	4
◆研修委員会の活動について(2)(山川哲央)	6
◆総務委員会の活動について(向井重樹)	7
◆事業委員会の活動について(多田稔)	8
◆広報委員会の活動について(炭谷浩一)	10
◆お知らせ (事務局)	12



会長挨拶

会長 山本 久美

■診断士協会を取り巻く現環境の認識 について

今回のコロナ禍で市場環境が非常に 厳しくなっていることは間違いないで す。一方でコロナ禍でも工夫をこらし、 機会を捉えて業績を維持・向上させてい る事業者とそうでないものの二極化が より鮮明になっていると思います。

同時に、都市部に人が集中する事の是非が見直される中、Iターン・Uターンといった形で人口移動が起こり始めており、愛媛県をはじめ地方の行政ではこうした人材を取り込むための活動が活発化しています。

サプライチェーンを構成する企業は 川下から順番に疲弊している状況で、窓 口相談での診断士の 需要は高まっての需要 す。ただ、この需要 もいずれ一巡する もいずますので の後の診断士 の後の診断べきかか 今から考えていたな ければなりません。



■今期の事業計画の内容について

現在、えひめ農業経営サポートセンターの支援を行っており、関係する動きについては研修委員会で月に1回行っているスキルアップ研修の場で情報共有しています。また、スキルアップ研修の

内容も農業に焦点をあてており、参加メンバーの成果物の質をアップできるよう取り組んでいます。

漁業については 2 年前の「中小企業診断士の日」に漁協の合併問題をテーマにしましたが、今年の 4 月に合併して単一漁業になりました。その後の経営支援の在り方や、人材確保のための I ターン・U ターンの就労窓口の活用など成功事例をとりまとめ、翌年の漁協支援活動に繋げていきます。

こうした一次産業の支援活動は企業 内診断士でも参加しやすい環境を整え、 働き方改革として国が推進している副 業についても絡めた形で進めて行くこ とを考えています。

また、就任あいさつで東予方面を回った際、公益財団法人えひめ東予産業創造センターに診断士協会としては初めてお邪魔させていただきました。東予方面には大企業を支える中小下請け企業も多数立地していますが、その状況についてお話をいただきました。診断士協会としても、一次・二次・三次と構成された下請け企業の支援体制について提案していくことを考えています。

中予方面では井関農機がグループ企業のための勉強会を、機械組合を通して実施しています。元々、私自身が勉強会に参画していた経緯もあり、こちらについても診断士協会として支援体制を提案していきたいと考えています。来年、年明け早々の実施を見込んで、年内の企画提案を行う予定です。

次に、愛媛大学社会共創学部との連携についてです。学生に中小企業診断士の資格に興味を持ってもらう目的で「診断士二次試験対応講座」を昨年度、実施しました。今年度は単位取得が可能な本格的な講義になる予定だったのですが、新型コロナウイルスの影響で講師が直接学生に講義する機会は得られませんでした。(※テキストを提供し学生各自が課題を解く形式で実施)

残念ではありますが、愛媛大学との連 携には四国で中小企業診断士試験が受 けられるよう、会場確保や運営支援で協 力体制を築くという目的もあります。次 年度の講義実施に備えて引き続き連携 していければと考えています。

外部との連携としては、関係機関等と「ものづくり補助金」や「相続の減税対策」の勉強会を企画していますので、スキルアップと共に参加メンバー間での交流、事業での連携を図って行きたいと思います。

また、日本政策金融公庫と信用保証協会との新たな事業での連携も考えており、今後、企画提案していきます。

■短期目標と長期目標

短期的な目標は今期事業計画の最初にも挙げた農業経営サポート支援で結果を出すこと、そして、この取組を通じて愛媛県の様々な農業事業者の経営が況を分析し、支援の在り方を報告することを分析し、支援の在り方を報告することを考えています。さらに、その成果をとを考えています。さらに、その成果をといます。これには参加といます。これには参加といます。これには参加といます。これには参加といます。これには参加というともも目指しています。これには参加というとも目指しています。これには参加というを表を行う経験を得て、ステップを図ってもらいたいという目的もあります。

松山市との連携事業である、未・来 Job まつやま(※9月23日より移転し 「松山しごと創造センター」と改称)で すが、来年3月で一区切りとなるので、 あらためて次のステップとして企画を 提案するつもりです。この事業はIター ン・U ターン、創業、副業といった多 様な働き方を模索する人材の動向を掴 み、窓口として接点を持てる事業です。 そこでの経験・蓄積を一次産業の農業・ 漁業支援での人材確保などに繋げてい くことを考えています。

長期的な目標としては、将来、中小企

業診断士を目指す人材を育成するという目標があります。愛媛大学との連携を強化して、学生に対して、診断士を知ってもらう、興味を深めてもらう、必要な知識を修めてもらう機会を増やしていくことで目標を実現していくことが私の仕事と考えています。

■提案にあたっての企画書の重要性

ここまでお伝えした通り、様々な機関・団体との連携事業を考えているのですが、企画提案にあたっては企画書の重要性をあらためて感じているところです。企画書を持参して提案することで、口頭で伝えた情報と文字の情報とが結び付き相手の印象に残りやすく、後から見返すことも容易です。資料に対して理解を深めてもらえば「中小企業診断士ができること」を相手にイメージしてもらいやすくなります。

民間コンサルタントでは当たり前のように企画書での提案を行っているので、差をつけられるわけにはいきません。 事業委員会のメンバーを中心に事業提案を積極的に行っていく体制を築いているところですが、各メンバーにおいても提案の際には企画書の作成を徹底してもらいたいと思います。

■診断士の専門性について

私は元々秤など計器を扱うメーカーにいました。相談役が独立するということで会社をやめサポートをするようになったのですが、仕事の中で専門性を磨く必要性を感じ、勉強の入り口とするため診断士の資格を取得しました。具体的な専門分野としては、食品関連の顧客が多かったので、ISO22000など食品安全規格の方面を磨いていきました。

メーカーでは経理課長までやっていたので、「財務が得意」という意識もあったのですが、プロのコンサルタントとしては財務のスキルだけでは不十分です。私の考えとしては財務分析と経営計

画の策定はあくまで入り口部分です。中小企業診断士として専門性を高めるべきはその先の具体的施策の実行を支援するところ、また、実施した内容を検証・評価し次の改善に繋げるところ、いわゆる PDCA サイクルでいうところの「DCA」にあたる部分だと考えています。

施策実行に関わる分野でいくと人材 育成も専門分野の1つになります。私自 身も支援の経験を積み重ねて今でこそ 専門領域の1つとしていますが、正直に 言うと苦手に感じていた部分もありま した。

例えば、製造現場では海外の方、高齢者の方、様々な人が同じ職場で働きます。 それぞれ、言語が違う、価値観が違うという中で同じ方向を目指せるように人材育成をやっていかなければならない。これだけでも大変です。そして、ときにはその人が苦手とする分野にもチャレンジしてもらわないといけない。その人のモチベーションを下げかねないという矛盾が含まれている中で、どのように折合いをつけるかは大変苦労し、難しさを感じます。

しかし、苦手意識を感じながらも取り 組み続けることで、今では専門領域の1 つとなっています。苦手なことが専門領域になっているというのも不思議な感じがしますが、逆に言うと苦手と感じている分野には「可能性」がある、とも言えます。会員の皆さんにもぜひ苦手分野にもチャレンジして、自らの専門性を磨いていってもらいたいと思います。

■愛媛県への貢献

今後の診断士協会の活動を考えるに あたって、愛媛県のために自分ができる ことは何なのかを考えることが必要だ と感じています。農業支援サポート事業 の中に農業事業者の持続化給付金の申 請支援があり、サポートセンターでの申 請は 100 件程あります。JA を通じての 申請と合わせると愛媛県全体で 2,500 件となります。これに商工会議所の方で 申請を受け付けている飲食業や宿泊業 を含めたらもっと多いと思います。

それだけ、このコロナ禍で窮している 事業者が県内にもいるということです。 だからこそ中小企業診断士の知識と知 恵がいる。次なるビジネス支援としてど ういうことを提案していくか、診断士協 会の力量が問われています。今までと同 じことをやっている診断士協会では存 続できません。

当然、診断士自身も変わっていく必要があります。企業内診断士や独立診断士も関係なく、お互いが能力を出し合って切磋琢磨しあうことが協会活動の質を高めていくと考えています。そして、高めた力で愛媛県のために診断士協会としてできることは、県にも提言していけれるよう新しい協会の形を作っていければと思います。

■診断士協会を未来に繋ぐために 私自身、愛媛県中小企業診断士協会の 会長に女性として初めて就任できたのは、副会長のときに上田前会長に自由にさせてもらった土台があってのことです。上田前会長には感謝しかありません。それを次の人に引き継いでいくことも考えています。

私の場合、人間性を重視します。チャンスを与えるかどうかの最初の判断としては、その人の人間性を見ます。そして、与えられたチャンスに対して成果を出すため努力を重ねているかどうか、それが次のステップに進んでもらうための重要な要素です。「この人だったら任せてよい」と思えることが前提です。

せっかく上田前会長から任された診断士協会ですから、地域社会から必要とされる存在として確固たるものを作り上げていきたい。支援する企業や連携先にとって実になる成果を提供するためには、一人一人の努力の積み重ねが必要です。診断士協会を未来に繋ぐためにも皆で努力していきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。



研修委員会の活動について(1)

副会長 一ノ宮 康嗣

■研修委員会の活動について

現在、えひめ農業経営サポートセンターとの連携事業をはじめ、様々な団体に向けての事業提案の動きがあり、これから連携事業が数多く上がってくるものと思います。中小企業診断士として、連携する相手先・支援先が満足するもの、役立つものを成果物として提供していく必要があります。その質を高めることを研修委員会の活動を通してやっていきたいと考えています。

具体的な取組として、スキルアップ研修を毎月 1 回行っています。今は第一次産業に関わる視点で、安全規格、国・

県の政策、財務会計、 外国人技能実習生、IT 活用という風に各回テーマを設定して担当する講師の先生を決めながら発表してもらっています。講師を担当し



ていただく先生にも新たな知見を学んでもらえるよう、ご自身の専門以外の分野へのチャレンジを推奨する形で行っています。

定期的な研修の取組では、回を重ねると参加者が固定化しがちなのが悩ましいところです。もちろん、今参加してい

ただいている方には継続して来ていた だきたいですが、新しい方にも参加して いただけるよう声掛けをしていく必要 性を感じています。

初参加というのは心理的にハードルが高く感じるかもしれませんが、広報委員会とも協力して研修の様子や参加することで得られるメリットなどをお伝えして、ハードルを下げていければと考えています。

■協力体制が広げる可能性

将来的なことになりますが、中小企業 診断士として活躍できる場所を広げて いきたいと思っています。支援先やクラ イアントと話をしていますと「中小企業 診断士はそれぞれライバル同士」と思わ れていることも多いのですが、私は決し てライバルとは思っていません。逆にも 力することで、支援の手を広げていける ことに可能性を感じています。そうすれ ば事業開拓の余地もまだまだあると思 います。

ひとりひとりの診断士がクライアントにより良い成果物を提供していき「中小企業診断士って必要やね」という認識が広がれば、活躍する領域も広がっていくと思います。

■診断士を取得したきっかけと現在の 活動について

私が診断士の資格を取得したきっかけですが、銀行で勤めていた時代に公的機関への出向があり、そこで診断士の方と一緒に仕事をしたのが大きなきっかけになりました。

以前から診断士が行う仕事に興味がありましたが、実際に診断士の方と企業支援をする中で、すごくやりがいのある仕事だと感じました。話を聞いてみると皆さん中小企業診断士の資格を取得して、この仕事をやっているということでしたので、私も将来、こうした企業支援を生業にしたいと考え、取得のための勉強をはじめたというのがいきさつです。

現在は公的な仕事を中心に受けています。よろず支援拠点と未・来 Jobまつやま(松山しごと創造センター)の仕事が主たるものになります。後は農業経営サポートセンターの事業もそうですが、他の公的な仕事があったら受けていて、民間の仕事も少ししています。

■活動への抱負

私自身、中小企業診断士としてのあるべき姿を目指して努力している最中です。皆さんと一緒にあるべき姿に向かってやっていければと思いますので、どうぞよろしくお願いします。





研修委員会の活動について(2)

研修委員 山川 哲央

■研修委員会の活動について

最近では診断士協会の方から各団体 との連携を提案しているところで、仕事 自体も様々なオファーが来るようにな ってきていると感じています。

私は診断士協会を転々としていまして最初の登録は福岡でした。その後、会社の都合で転勤をして東京の城北支部に入っており、5年前には広島県協会に所属、愛媛に来てこの診断士協会に入ってからは3年目になります。

地方でも福岡県協会や広島県協会は 非常に活発な活動をしており、広島では 信用保証協会や地元の金融機関、信用金 庫といった機関とがっちり組んで事業 を回していて、協会のメンバーだけでは 人手が足りないくらい業務委託のボリ ュームがありました。私自身も診断士協 会は積極的に事業を獲得しているところが あり、現在、山本会長が取り組まれてい ることはまさしくあるべき方向性と思 っています。

研修委員会でも獲得した事業へ積極 的に参画してもらえるようメンバーの 能力・スキルを磨ける場を提供していく 計画です。

■専門性を越えて学ぶ

現在取り組んでいるスキルアップ研修では農業をテーマとして取り上げています。私も担当講師となる機会があり農業政策や行政の支援内容などを紹介しました。その内容を調べる時にも感じたことが、愛媛県固有の課題と言いますか、愛媛の持つ地域資源が抱える課題があるということです。

農業の他にはどんなテーマがあるの かというと、一次産業だったり観光だっ たり、東予の方面では造船、機械関係、タオルもあるで業にになるで、、 がで、一般ではな産業にはないで、の個別の課題と取組むべき方向性があると思います。



他県の研修や研究会では同じ得意分野を持つ方が集まって、手持ちの専門性で培った経験やノウハウをシェアしてさらに専門性を高めていくという形式が多いのではないかと思います。愛媛媛県固有の課題を中心に取り上げて、それに対して担当講師となった方は自らの専門性の有無に関わらず興味を持って調べ、一定の見解を持って発表する形を取っています。

自身にとっては未知なる課題でも専門性の壁を越えて、愛媛県にいるからこそ取り組むべき課題を自ら探し出して学ぶ、そういう研修にしていければと考えています。

■資格・ネットワークを活かした働き方 2005 年に資格を取得し、今年で 15 年目になります。太陽石油に勤めて法人 営業をしていますが、その傍らで本格的 に診断士活動を始めたのが広島県協会 に所属していたときで 5 年前からとな ります。収入比率でいくとまだまだ本業 との差があるのですけども、パラレルワ ークで得られる様々な気付きを双方の 活動に活かしています。

会員には企業内診断士の方もいらっしゃると思います。伊予銀行、愛媛銀行でも副業解禁に舵を切ったと報道が出ていましたけれども、企業内で働いてい

る方の選択肢を増やすというか、活躍する場はさらに広げられるはずだと思っています。私自身が愛媛の中で、企業内診断士として働き方の先行事例となればという思いで活動しています。

診断士の資格を取った後にビジネススクールに通っていたのですが、卒業後のネットワークも非常に強く、新型コロナウイルスの状況の中でも修了生を含めて Zoom での講義を開催してくれています。そこでは経営に関して新たな知見や情報を得られる機会もあり、先端の情報に触れることができるネットワークです。

得た情報や知識を診断士協会でも広くタイムリーに情報共有して、世の中の新しい動きをキャッチした上で、課題に取り組むきっかけづくりをやっていければと考えています。

■会員に向けてのメッセージ

私自身も心掛けていて、クライアント にも勧めているのですが、様々な場面に 顔を出すことが大事だと思います。会合、飲み会、レセプションなど機会を逃さずに参加することで人との繋がりが広がり、仕事にも繋がっていくものと思います。

企業内診断士の方にとっても、案内された様々な活動に関わっていくことはとても意義あることだと思っています。 心理的ハードルは高いと思うのですが、最初は話を聞くだけ、どういう人がいるのか知るだけでも参加する意味があります。研修も 1 つの機会ですので、それも含めてぜひとも様々な活動に関わっていただきたいですね。

誰しも最初は大変だと感じるけど、最後は参加してよかったと感じるものがあると思います。仕事とのバランスであるとか頭をよぎることは色々あるかもしれませんが、考えすぎずに「やってみるだけ、やってみる」という気持ちでチャレンジしてみてください。



総務委員会の活動について

総務委員長 向井 重樹

■総務委員会の活動について 総務委員会の活動としては、以下の6 項目を事業計画としています。

①各種規程等の作成整備、②現預金の会計監査及び年度予算案を作成、③理論政策更新研修事業の実施、④無料経営相談事業の実施、⑤会員活動領域の拡大に繋げるための他機関との業務連携推進、⑥他の委員会の計画事項の最終調整、他の委員会に含まれない事業を実施

この中で、①②は総務委員会の事業となりますが、③~⑥は他の委員会との連携や会員の皆さんの協力、そして事務局との共働が大事になってきます。また、③理論更新研修事業や④無料経営相談

事業は、総務委員会 の事業と考えにん。 かもれません。 かし、総会が成り 当協会が成必必で を受けたい を受けたいただ を考えていただ



くと、総務委員会の立ち位置が理解いた だけると思います。

今年度はこれらの事業計画を実行する中で、コンプライアンスの周知・徹底も進めていきたいと考えています。当協会は、今年度の重点強化施策の一つとして、「中小企業診断士へのコンプライア

ンスの周知・徹底を行い、行政機関、中 小企業支援機関、金融機関、士業等との 連携を密にして、業務拡充を強力に推進 する」を掲げています。他機関との業務 連携にはコンプライアンスの強化が欠 かせません。診断士としてコンプライアンスは当たり前のことですが、思わぬ落 とし穴があったりするものです。総務委 員会は、他の委員会事業を含め当協会の 活動からコンプライアンスの観点が抜 け落ちないよう注視していきます。

以上のように、総務委員会はあまり目立ちませんが、重要な役割を担っています。いろいろ面倒なことを申し上げるかも知れませんが、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

■診断士としての主なフィールド

独立してしばらくは公的機関のアドバイザーの仕事を積極的にやっていました。しかし、本当に企業の経営支援をするなら個々に契約して一歩踏み込んで伴走支援をやっていく必要があると感じ、企業との個別契約の仕事を増やすようにしています。

自分の中で「経営コンサルタント」の 仕事というと経営支援が真っ先にイメ ージされます。そもそもコンサルタント を始めたきっかけが困っている中小企業を助けたいという思いから始まっていますので、企業の困っていることを解決したいという欲求が強いのです。

アドバイザーの仕事もどういう業種の人がどういう悩みを持っているのかを知るきっかけになったり、専門性のある分野とまったく別の分野での質問に回答を求められ、それを調べることであることでは報に触れるきっかけになったりと、様々な背景を持つ方と接することができ、それはそれで楽しい仕事です。ですが私は、自らの本業をコンサルタがらして企業と継続的に関わりながでよして企業と継続的に関わりながを目指す成果を生み出すために支援をしての結果、私の主なフィールドは企業との個別契約の仕事になっています。

独立を考えている方は、協会を活用して当面の仕事を確保することから始まると思いますが、次のステップは多くの選択肢があります。その中で、企業との個別契約もぜひ検討してください。

■活動への抱負

協会ビジョンを実現するために業務 分掌規程に基づき、組織運営に努めてま いりますので、よろしくお願いします。



事業委員会の活動について

事業委員長 多田 稔

■事業委員会の活動について

事業委員会の活動内容は、経営コンサルタントや中小企業診断士としての仕事を協会として確保することです。事業委員会の名前だけ聞くとイメージしにくいかもしれませんが、診断士協会をコンサルティングファームに例えるなら、事業委員会は営業部隊で事業委員長が営業部長というイメージです。

診断士としていますとしていた は、どのように仕まる は、どのように仕ける を獲得しているではないのではないのではない。 を思います。 を 員会で仕事を確



保していきますので、診断士協会から紹

介される仕事にぜひ手を挙げてチャレンジしてみてください。会員の皆さんに向け、仕事の機会を増やしていくことが事業委員会の使命だと考えています。

■新たに取り組みたいこと

先ほど、診断士協会の中の営業部隊という言い方をしましたが、地方の診断士協会としての営業先は公的機関が対象になってきます。具体的には商工会議所などから経営改善、伴走型支援といった仕事を獲得していく予定です。

商工会議所・商工会では国の枠組みとして経営発達支援計画というものがあります。各団体が企業を支援する計画を立てて、国の認可を受けることで事業費補助などのメリットがあります。調べると愛媛県で経営発達支援計画の認可を取得している商工会議所・商工会は21か所あります。直近(平成31年3月)で取得しているところは12か所あり、5年計画ですので令和6年を最終年として支援事業を実施しています。

計画として公表されているものを見ると「専門家の知見を活かす」「診断士と一緒に伴走型支援をする」といった文言が盛り込まれており、我々診断士が支援できるフィールドがあると言えます。各団体を可能な限り回って、診断士としてどのようなことがお手伝いできるかを提案していきたいと考えています。金融機関や他のところでも同様の話はありますが、経営発達支援計画には診断士を想定した記載があり、確度が高いと思うので優先して回っていきます。

他に公的なところでは地方自治体の 産業振興に関する部署などでの公募、プロポーザルなどもあるので、こうしたも のにもチャレンジしていきたいと考え ています。

■診断士を目指したきっかけ

私は金融機関出身なのですが市中銀 行ではなく労働金庫出身です。労働組合 が出資して作っている金融機関で、いわゆる消費者金融が主な業務です。企業融資ではなく個人向け融資ですので、大きな案件であっても住宅ローンや自動車ローンといった類のものになります。そのため、金融機関出身ではありますが、この職のときには貸借対照表を読むといった経験はほとんどなく、企業財務を本格的に学んだのは転職した後になります。

2 回目の転職で東京の翻訳会社に就職しました。リーマンショックの時分で仕事はほとんどなく、代わりに時間ができました。この時間を有効に使いたいと思い、日本大学が社会人向けに開講していた MBA コースで勉強を始めました。

財務分野には苦手意識があったのですが、講義の内容に含まれており避けることはできません。しかし、講師の先生がアカウンティングとファイナンスの意義や楽しさを伝えるのが上手い先生で、興味を持って勉強することができたのは幸運でした。その先生の勧めもあって中小企業診断士にチャレンジしました。

取得は3年がかりになったのですが、 残業が終わった後、帰りがけにマクドナルドやカフェに寄って、最低でも1時間は勉強すると決めて取り組んだのは 良い思い出です。

■独立後の活動について

2016 年、3 回目の受験で資格を取得 しそのまま独立しました。実は 3 回目 の受験時には仕事をやめていて、背水の 陣で臨みました。

独立開業してすぐに診断士協会にも 入って、単発の仕事に積極的に手を挙げ て取り組んでいきました。ちょうど林業 事業者の設備導入資金の貸付にあたっ て経営診断をする事業が回っていた頃 でその仕事にも参画していました。他に は、ネットで記事を書くバイトがあり、 将来的に営業に使えないかと診断士の 知見も交えて記事を書いた経験もあり ます。

独立して 1 年が経ったころ、えひめ 産業振興財団のあるポジションに空き ができ、周囲の勧めもあって応募するこ とにしました。その応募には受からなか ったのですが、面接のときの印象が残っ ていたのか事業承継の仕事ができたと きに財団から声をかけていただきまし た。その他、商工会議所からもセミナー 依頼を受けるなど少しずつ縁が広がっ ていき今に至ります。

心掛けていることは、いただいた仕事を誠実にやることです。そうして1つ1つの仕事を形にする中で成果物が評価されれば「こういう仕事ができるなら、

これも頼んでみよう」という流れで仕事が広がっていると感じています。

■委員長としての抱負

私は独立から 5 年目で他の先生と比べるとキャリアも浅い駆け出しです。そんな私が事業委員長という大役を仰せつかって身が引き締まる思いです。しかし、キャリアが浅いからこそ診断士協会の仕事をきっかけに繋がりを得て、仕事が広がって来たという実感も強くもっています。同じように独立したての先生や独立を考えている企業内診断士の方に、診断士は稼げる仕事だと認識してもらうためにも事業委員長として、しっかり仕事を獲得していきたいと思います。



広報委員会の活動について

広報委員長 炭谷 浩一

■広報委員会の活動について

広報委員会の活動は主に 3 つありまして、1 つ目が機関誌「しんあい」の編集発行、2 つ目が協会ホームページの運用、3 つ目がプレスリリースです。

1つ目の機関誌「しんあい」についてムは年 2 回発行して、協会のようのようをできるようできるようできるように行政や中小できるように行政や中小を変換関にも発送していて、診断状況を周知するためにものがでは、2つ目の協会ホームを図る向けへの認知度向はなく、研修会や総会なども情報の告知なども行っては、中小企業診断にの認知を高めるため報道機関にしています。地元テレビ局のと対しています。地元テレビ局のとメディアへの露出も増やしています。

■今期の活動で力を入れたいこと

機関誌「しんあい」は会員以外にもった。せっからくないます。しているのからないで、にいるのの会員などで、にいるのかださせで、にいまないとといます。



中小企業診断士の活動分野は多岐に わたるので、ある仕事の話を聞いた先生 が特定分野に長けた別の先生に繋いだ り、チームを組んで受けたりすることも あると思うのですが、そのためには他の 先生が得意な分野を会員同士で知って おくことが重要だと考えています。

懇親会などのお互いを知るための機会を活用して共有できればよいのですが、今年は新型コロナウイルスの影響でその機会も減っています。それを補う意味でも、会員診断士の専門分野の話題といった情報を積極的に発信できればと

思います。新入会員の方には最初に寄稿していただいているのですが、一般会員の方にはそれ以降に寄稿いただく機会があまりないので、増やしていければ面白くなるのではないかと考えています。

ホームページについても 3 年前にリニューアルしたのですが、会員以外の方からも見ましたという話を聞きます。こちらも情報発信を強化して、例えば、ホームページを通して一般の方から補助金についての問い合わせが入った、という具合に 1 つの営業窓口として機能するよう活用できればと思います。

■資格取得のきっかけ

キャリアとしては、建設業を15年ほど経験しています。はじめは家業に軸足をおく企業内診断士でしたが、今は家業と看板を分けてパラレル診断士といった立ち位置で活動しています。

元々家業が小さな会社なので運営管理から、財務、人事まで全部 1 人で回さなければいけない状況がありました。自分の知識に対してやらないといけない問題の幅が広すぎたのでどこから手を付けていいのか分からない、課題が見えない中で悩むことが多かったです。そのため、自分の知識の幅を広げるために診断士の勉強をすることにして、資格を取ることに繋がりました。

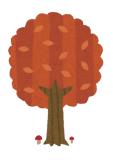
■着目しているスキル

診断士のコンサルティングにはコー チングとティーチングの 2 つの要素が あると思います。ティーチングは知識の 引き出しから解を導き出して教えるも のですが、課題が明確なときには有効な 方法です。しかし、中小企業の経営には 課題が見えなくなっているケースもあ ります。昔の私がそうだったように症状 として悪いのは分かるけども、課題が 見たなりたい。そういう場合は には見極められず、どこから身合は いきなりティーチングに入るのではな く、コーチングの手法を使ってクライは と、トとの対話を重ね、一緒に課題を洗い 出すところから始める必要があると感 じています。

特に公的な支援の場では、課題が見えにくいケースに当たることが多かったので、今後コーチングに関わるスキルも伸ばしていきたいです。今は新型コロナウイルスの影響で環境が激変していることもあり、これまで以上に何が正しいのか答えを見出しにくい状況になっています。この状況の中でも中小企業を的確に支援するためにコーチングのスキルを磨いて、私の診断士としての色に加えていきたいと思っています。

■活動への抱負

広報委員会としては、愛媛県診断士協会としての活動だけでなく、所属診断士の個々の活動も見えるようなオープンな情報発信を目指していきたいと思っています。皆さんのご助力をお願いします。





お知らせ

■令和2年度(後半)の行事予定

日 程	行 事 内 容
10月2日(金)	四国ブロック会議(高知県・オンライン会議)
12月3日(木)	会員研究会・忘年会 (東京第一ホテル松山)

編集後記

「しんあい 2020 年秋号」発行にあたり、大変お忙しい中ご執筆いただきまして、まことにありがとうございます。また、協会事務局、広報委員、発行に関わっていただいた皆様に、心より御礼申し上げます。

愛媛県中小企業診断士協会は、6月に役員任期満了に伴う改選をおこない、新体制で新たなスタートを切りました。今号では、新会長をはじめ新たに選任された委員の方々を中心に、今後の活動方針等をインタビュー形式で取りまとめさせていただきました。次号以降も、さまざまな分野の中小企業診断士の方々にご執筆いただければと考えております。

新型コロナウイルスの影響で大変な状況ではございますが、感染予防に細心の 注意を払いながら、秋のひとときを満喫しましょう。

最後に、いただいた原稿につきましては、できるだけ原文通りに掲載したいと 思っておりますが、紙面や構成の都合で編集させていただいております。ご了承 のほど、お願い申し上げます。

(広報委員長 炭谷浩一)

